

新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論 がん緩和医療と高齢者総合評価

講義日：2022年10月8日（土）

講師：木澤 義之（筑波大学医学医療系緩和医療学 緩和支援診療科）

要旨

わが国の緩和ケアはこの30年で急速に進歩し、がん対策でその重点政策として取り上げられ、医療の中で欠くことのできないものとなってきている。今後の課題は、1）早期からの緩和ケアのさらなる実践（腫瘍学と緩和ケアの統合）、2）がん以外の疾患に対する緩和ケア、の2点に大別される。

早期からの緩和ケアの実践として充実させる必要があるのは、①症状モニタリング、スクリーニングの励行、②症状緩和、③病状理解と治療目標の共有、④意思決定支援とアドバンス・ケア・プランニング、⑤個別化医療、とりわけ高齢者への対応である。症状緩和に関する取り組みだけが注目されがちだが、もうひとつの重要な点が、治療・ケアの目標を共有すること、意思決定支援であるとされている。またこれまでわが国では、がんを中心として緩和医療が普及発展してきているが、年間130万人の死亡者のうちがんは21%を占めるにすぎない。今後、心不全やCOPD、脳血管疾患などに対する緩和ケアを考えていく必要がある。